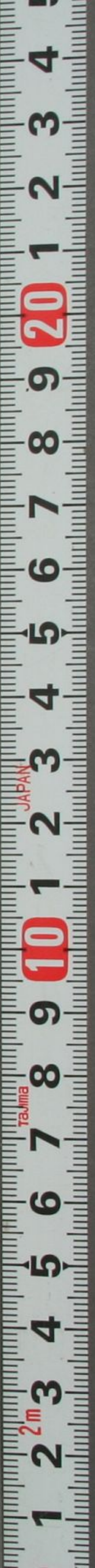


味漢法式並百韻

伊地知文庫

文庫20

193



廟家恒律

和漢式目

伊地知氏書冊



- 一 大概法可用連款式目事
- 一 和漢共以五勺為限。但至漢對勺可及六勺事
- 一 景物草木等負數。和漢可通用事。但雨嵐昔古曉老等之類。和漢各可用之
- 一 同季可隔七勺同字并恣述依等可

五勺。同連款式。自餘隔七勺之物可隔
五勺。月與月類。隔五勺之物可隔三勺。
山類與山類。水過與水過。木與木。之類也。日與日。風與風。猶同字。嫌物也。隔三勺之物可隔二勺。嫌物打越之物。同連款式。月山類。水邊居所等者。不可有躰用。分別之事。

一 萬物異名就本躰。可其季定。但可為本躰外。夏假令金鳥日。銀开雨金衣

鶯鳥衣。燕霜蹄。馬鯨鐘。如此類。可依連款異名物例。

一 聯勺中可定其季等字夏

暖芳有花之意。紅日。濟氣。燒痕。踏青。

芳草。如此類。春也。新綠。霖暑。炎熱。草。

木之茂。字清和。四月。如此類。夏也。初涼。新涼。

冷爽。金氣。黃落。如此類。秋也。枯。草木之心也。

臘探梅。春信。歲。如此類。冬也。信。書信。

客 非賓客之客

一葉舟 舟 飯字 漂泊

如此類 旅也

錦字御講葉私語如此類也

人名

倫姓者 可為入

不可為人倫 但依事也

名利塵 世上意

浮跡出所

如此類 還懷也

一絲 釣絲之意 可為水邊也

禪定錫

如此類 釋教之

應安以來新式之今案之追加各二并
近代用捨篇目等依多其端末學常
迷元商量而今彼是勒以為一冊但

猶末一災之更式暫瀉之式先載之以
待後君子志同者從亦冒乎

文龜 辛酉林鐘上澣

御期望之新式書寫之更仍京中同逐
校合唯今進候猶僻字誤等可有之

△春

雪消 雪解 雪間 比ふ子 日く

梅永日 朧月 雉子 野下 萌呼子

柳 薇 田之返 鶯 糸 越 雲 雀

松 糸 線 桃花 長閑 白尾 鶯 松花

うきしん 鶯

梅 山 墨 下 い 當 難 波 春 の 月 軒 端

雪 間 春 丸 照 如 不 や ぶ ー ー ー 道

物 水 邊 春 丸 道 那 邊 葛 城 池

櫻 深心春 霧 赤心 雲の雲

深泉洛 新田山 去書

枇 三月 盃 我や堂 大吼了谷

去書

菰 松 春日池 池水 夕子浦

歎冬 曇古 岩尾 三ヶヶ心

入江

歎冬 池 空 里 河片 清澄月

去書

日 去書 去書 去書 去書

雪消乃 神意 去書 日ノ池

薇 山下水 也者 野してい

椿 春ノ代 河み 庭 軒 階 山

帰春 花乃心 洛 岸 子心 雲井

曙 去書 塞 去書 去書 去書

雪 谷乃戸 雪消乃 梅 心 里

竹 氷箔 地邊 庭 かりぬ 枕
庭 明石月

六半 地人 ちうそく 於ほ草 案

あまのうげ

雛子 片ふ ちう草 酒人 乙地

ちうし

合夏 ちう草 ちう草 ありん みる ちう草

明やす紀集 蟬 水鳥巢 卯花 杜若

あしこる川 ちう草 衣之 又カホ

田うゆ家 子苗 う舟 アフニ草

泉 あさこ記 御形 ちう草

ちう草 ちう草 ちう草 ちう草

蚊を火

楊 ちう草 柳のぬ ちう草 軒端

神 鏡池心 月草 ちう草

蒼 叢山 松のやうな 日くげ月く

あや先 新堀 沢 沼 女有 池
うしろの道

榎子 夕露 納涼 山 夕多音 蝶庭

早苗 時鳥 泪 水 夕多音 露 庭

星

卯花 山 清光 雲 夕月 玉河 星 谷

寄 離 夕月 夕月 草 喜 月 心

夕衣 夕の宿 任音 夕モト 涼 夕

君

時鳥 雲 間月 山 夕 志の先 夕月

相 梅園 急 夕 夕月 夕月 夕

浣 夕 夕 夕

螢 水邊 池水 納涼月 沢水

芦 夕 入江 池邊 夕や 夕 夕

暮虫 忘 夕 夕 夕 夕 夕

夕月 夕

蟬 八山 高心 女日每 秋之香

舟 加り火 大井川 ろく川 女日川

宇治川

扇 出松 ハラ 里 おりる形

又立 雲越 凡 浮雲 月更す

蟬ノ八心 村雲

清水鏡 又立 病 いふ井 岩弓水

山ノ井

す凡 句ノ蟬 水邊 山ノ下

又白く蟬ノ下 松をくふ氣 山の下

女日每 楊ノ家

△秋 一葉も 七夕 け紫 句ノ末

身ノ入月 集を 良夜 け

けし織虫 三カへ 一わろ 日ノ色

寄 萩 涼ふ 中村楓 萩

かみち 切るや 枯れ 穢 穢 穢
衣より 菊糸 尾花 鳩鳴 山ノ色
稲葉 龍 龍 龍 龍 龍
梧 落葉 かり 回 時 天 別 云 草
萩 庭 山ノ色 濱邊 秋ノ久
萩 露 衣子 麻 さくら け
秋ノ心

楓 時毎 春ノ音 春ノ月
露 心ノ音 嵐ノ心 雨ノ心 小倉ノ心
お坂
涼 麻 虫 白枕 水端 四重ノ庭
定ノ心
尾花 神 鷲 時ノ音 秋ノ月 春ノ心
槿 春ノ心 カキ木 庭 春ノ心
七夕 秋ノ心 月 萩

麻 小倉山 時每 峯 定

かすの地 小回原 ハキカ花

蟹 四里 山屋 鬼山 おとこ山

友志坊子

蟹 四里 好く 草枕 弓海子

蟹 杉の枕 高草 山ち 草毛月

蓬生

砧 月、草毛 台人 四里 家け子 神

神美家心 吉相屋 山屋 少見屋

織う店

山向 麻言 月 夜定 衣い 孫子

冬 初より 氷柱 神の雷 定草

月霜 月氷 枯地 月色 木葉

手鳥 高草 紅葉 雁鳥 炭多

煙火 庭火 去近 うま好鳥

春をまじり 木枯 高野 カリバ

カクナ

木紫 時毎 山崎 月多 龜子

千鳥 夕波 小舟 文 江ノ浦

明石あり 磯 イモト 津 江ノ川

示 水底 志 八渚 泉

鴨 月水 あり 川 山 入江 荒八

鴛 妙光 冬 冬 原 雪

こころ 夕山 枯地 斤地 電

雪 山 杉場 梅 芝 庵 尊

春

寂 木葉 氷 志 地

指地 松 宿月 月 乾

氷 月多 冬 氷 水

埋火 宿 老 友 孫 光

松 嵐 峯 雪 雲

高きすみの浦 麻 難波

多海 老鷹

須磨石 口は花神 梅月波電

河さるに 勢

竹 電 霧 舟 八心 管 伏見

鳥かき 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

檜原 峯 尖立 竹心 雪の村 濱

泊瀬山 運橋 之橋心 小松原 港

萍 測 柳 虫 波 水 底 足 舟

初秋 家丸 久方月 月 舟

芝 川舟 藤路 山路 一舟 舟

友 舟

春日 霧 舟 カク山 野 舟

虫 忘 舟 舟 舟 舟

末 虫 舟

文 花 枝 菊 菰 舟 舟

吉位 形見 雨籠 別なてい

歌 蛙 嬰馬 木コリ 神代

妾心 聖 侍侘 玉章 傳 別ワシ

悪かよひち いり勢 独ねあま

うさうふれ しのきき 夕ゆき

神のちきき 面籠とらぬ 共業

逢ふ事 ひの煙 きあぐ 人書

思ふぬ 決ういも 形見ノ衣

薰 君うさ先 梅花セメ 袖

衣 袂 人まじくも

衣 露の袖 一のみ糸 毎糸

旅

袖 ちきき 名花 共業枕

錦 立田川 萩 極 極 四里屏

洛

席 苔 草 床 園

車

夕夕不 浣 清華 花見

鏡

物見 夕夕の糸

山鳥 山 花下鳥 好川遊

池鳥の糸

笛

草薙 隣 庭火 窓がまら

ふし

迷懷

浮世 昔 暮世 世哉捨る

くくの家

暮世の袖 花 壽

老

身 山徑 夕夕へ古衣

花見月 夕夕も髪

音

夕夕の友 月やあや思出はる

袖のなまら

四星

花をうき 夕夕の虫 庭

空の中

月や夕夕の氷 時毎

夕夕

砧 月あやち糸 初見 山中

かゝらち 心平 遠地

山星 小池 杉せ 沢广 初雪

落葉 静夜 雪う入江 春夕なれ

舟車 清水 古沢水草枕 松木

池 水鳥 之の路馬 夜なまはれ

遠路 庭 死鳥鳥 少かき枕

泉 岩好道 すすま衣 夕螢

橋 川流 下こやまき

無情 雪跡 夕や、 草の香

名をのり 無人 恋 杉れ先立

此うがふり 冬雪消し 扇衣鳥部地

扇衣 袖の海 山人 松人 あまふ人

ワカ人

西 川波 雪もなると 鳩のや

淋し 川流 柳 杉せ

不紫 落葉

旅

洛 舟路 くらね 心越

神

園鳥 尊祝 さうじにゆかり 我四里

神垣 文井 かきく 庭火

ちいふ 一先繩柳 文鳥 祭祈

あしふ 一いし竹

釋教

勒 法おない 古鳥 面親

ふし林 蓮の巻

寺 竹の林 難波 神半 入合境

初瀬 法 人帰 新杉也家の雲

鐘 心 峯 雲集 月 別

衣 初瀬 花鳥 志雲の鳥 恋心

鴉 羊の心 芝間 舟 くら川

寄心 恒沙 松風 女は花

鴨 法親 水鳥 車 ソコ山

蛭 小川

小池 藪 月の東 雪 銅斤 雲 藪

松 河... 梅

秋 多岳 伊勢 欠... 清元

秋

音舞

七紀入水川... 園...

嘆

洛の西... 木橋...

七... 小倉...

小野 浅茅... 菊 旧屋

舊 卯の花

伏見 竹 山田 早苗 本橋 海草

衣... 月

海草 山... 洛... 竹...

河...

宗流 橋 寺 川波 船...

芝舟 水... 柳... 舟

三橋 松村 橋原 市川...

吉野 月 旧屋...

すもれ川 しのぶ山 雪

清子心 勇あふ心 ち

新 退社 ヤカク 皇家行歩体 ナドテカク 初附

取食 アハル 父母 カゲイロ 皇 スレキ

式月之歌

衣きや行回毎路よ夏海月と松竹ハセウきる邊
日ありあまの月も月と月あや行と草木ハニの去へ
三の嫌まの物り物後よ物法て草木此伸堂地
何文字極物衣類とま物浦心けてあつ去へ
迷懐や外紙釋教あま守常居所有邊あつ去へ
星雲のハ書なき嫌まハ又あま勝るあつ月
空ささげしゆ事せやうまれあつとあつあつ
竹園

川上花雪のころり

朔邊路似絲

餘寒樵束泣

雪乃の袖乃常流

喜ぬよ病うゝ花の香ゆ

吟友至何遅

鬢自秋深悴

電雖露結衰

東長きも独をの小造か

復あけく八月の出た

あぢう心向都て

陵飯淡不早

官湖鷗減徳

嶋れあゝらよ左辺の池

陰く記岩尾の松のぼ

世艱奈老涯

独宵花對影
番吹柳舒眉

あえく〜音もさる海
こもりと海に水たれ崖
堤残る田舎の道
かゝ跡なき庵の道芝
午静聞岩溜
烟微諳市炊

乃神のを心の中を
行く道〜人の跡。苔

辰葉驚陰迎
合觀喜霧披

私沈〜心よりす事
か〜想星の輝けり思ふ
白菊の香をのび梅
尋春蝶繞籬

騷遊消日永

神をわもし中の厄

紫衣川やその上を渡る

くすすしとほくろよ廻

禮葉不論節

利竿石廊基

松村の楮乃草をたかり

礎蹊元踏之

笠因山好卸

照るくまもあまの陰の星を

木間もつと羽をさうた鳥

あまもも草をよ教飛

歩月駟秋色

俣是檄雨師

かのもろ民れ田水流

くはれをさへる前の地

吹起張涼笛
彈殘祿里琵琶

心や熱りよこ心成るゝ
いぢあやう世を及ぶハ危き
理りしやと名立以身修

別來徒仕詞

隱家或とも神いよ花家

任埋滿地梨

在亡霞際塔

評只月固旗

苦熱忘苛政

移風拾孽遺

蘇をくまわす

片山星ハカサカ

略竹霧偷柳

虛舟月載来

川をい乃柳の葉打あて
さうく人をこゝ村の颯
星越くやまの弦間日を落
家ハワリく竹の下枝
淡雪水無跡
寒城氷在髭
話花春咫尺
觀英歳諸君

あつてくよあつてくよ庭の如く
燕ハ知面よ移る鵲
報夏盍隣緑
送陽帰院緇
たふあひかみ時よこさる
みちを強むる国うらみ

和漢 永祿十二年閏月九日

よりやぬる世の底に於て

雲隔一声 鶻

樓暮山得 月

袖ひやうは凡う吹く所

法印堂本此の於て

秋螢翳復 燃

紹巴

仁如

策彦

勝長

昌叱

壽筠

磨人知学力

如くあらまはしなればあはれ友

抑徳隣為善

をさき方より袖つとふ門

指ます。船を入江の言は

先をいしとみ海江の雲

松濤鷗破睡

林寺鳥参禅

宗純

英祐

美光

賢家

之継

巴

仁

策

ふもそく名跡の種は多し
おのこもそく名跡の種は多し

曾遊蝶夢
新調自黨恋

初定霜满天
和面もるもり知気は玉

思やそく名跡の種は多し
書音相一傳

勝長

叱

筠

宗繼

怙

允

賢

仁

淚痕商神冷

市人乃碎のこもり多し

橋西夕照懸

秋を死陀乃川波多し

臂蒼多御獵

頌白奉清賢

策

勝長

巴

筠

叱

怙

仁

美允

窓洗礪山竹

あつたてゝ露をきりて跡をぬ

霽餘高吹度

なまゆる月八水の浮草

午鼎園茶佛

かちひるゑるをちぢぢけ

所せきと袖やまのこよ

旅泊客争船

継

賢家

策

巴

仁

之継

怙

仁

いふれ女乃くゝむ挽舟渡

別後想夫憐

是少苔埋砌

隠深笕引泉

飛雲岩多くくゝむ陰又くゝ

映一月露殊連

乱あふ陽まのふ枝系すま

暮凡の跡れ夕はひる

巴

筠

光

策

勝名

継

叱

賢家

松虫の夜は残るも子守歌
余所より松をくわす山車

花馥任霞積

絮狂殺雪翩

笋迎風し捲

硯の字忘のり

真指麥蘭枯

草傳表木綿

勝名

策

仁

筠

叱

策

葦枯江絶渡

永は船ハもどらもどら

物方重く海士の管成ら

吹は雲砂る肌の上の

名不もねし原の

境勝志春遷

遊屐尋芳曳

陰ハもむ花の小車

元

巴

勝

名

巴

仁

叱

宗

かきくくあの中しはるを夜

隻夜月何娟

秋意こ都る人の旅枕

こちをいゆるにともなき

遊せやあはれ海よこ

こはくすある世中

官胡棠英辱

儒古簡新編

賢家

筠

竹

巴

叱

勝長

策

仁

勤則晷經玉

南諸水續弦

松此凡勝のしきよあはれ

岩を根はらういやはれ

やうしていよあはれ

涼扇定堪掄

葦戸虫針耳

かきのすいよあはれ

繼

筠

巴

賢家

勝長

策

元

叱

酒可禦冬貝

ちりし粒を焼ゆすこ

晨鴉迷宿霽

隙駟嘆流年

何故心やのやまの久の病

身被六塵纏

了地とよみねおいふ

きこまれば見ゆりね

候

筇

策

長

光

叱

怙

春八雲河原の波

風急有花邊

舞勅_二燕見教

句呼免穎聯

りるもよまを梅葉月の中

しるもよまを梅葉月の中

兼後陶庵窄

草間謝履穿

巴

仁

繼

策

叱

家

筇

繼

少塚のわらう強く海をて
うり置し八分此神植
松秋の村くよは陰うり
とくもて跡のまをりて心

東蓬三島仙
南楚九疑黛

策仁叱名枯巴

策彦十二
昌叱十一
宗継八
兼光七
之継二

勝長十
壽筠九
英枯九
賢家七

漢和

天正三年十二月廿五日

新梅冬感旧

策彦

まねまよやとの鳥

三条大納言

吟忘檐滴凍

周隣

卧聴礪流清

山松の苔葉を列栞て

水子胤

掃ととこ岩うかすく

紹巴

暮々雲微有月

壽筠

秋雨半難晴

藤室相

凡をいさみむれいそる

雅敦

舟のあさうらら

門くれば花のさみまの陰は

巴

尋春元履声

筠

景佳詩杖瘦

今敷

少多の秋の月かゝる

友

麻の音のほろけの村の毎
雲よりほろけの山と成
みちよほろけの山と成
をくはく乃友多るちく

信向水濱問
才於月旦評
一僧披累百
二老路相并

雅
心前
昌胤
策
周
笑隱
筠

勿剪杏壇草
個のほろけす玉草
梨りほろけすほろけ
善人いつと月よき

朝槿奈恩露
秋よりほろけ我草り
千飛名有戒
如幻曲無生

令
奈
友
巴
策
奈
周
笑

幽磬認林寺

とささあしほやむしり園アカギ

月を照らする夜も哀

まろ糸の袖に海を望む

むさくは信娘一ふりよ

うさくは狂寿年ふ

愁似落花積

軍其細柳宮

巴 系 雅 友 心 策 周

これ行つてくも春はあは

けもけ舟乃道遠

風葦平蚤灯カキ

晴苔 双履 粧

ま砂地の柳は洒く五葉

少跡もくも白瓊

為月移登席

名東あつためも鱧

昌 系 令 巴 昌 玄 策

鐘啞訝窓晴
簾新比練澄

こよのりり遊の布川山
つきとて昔屋の園は心

指桑田結盃
無從離枕淚

うきとらるや凡のふかき
形人やす水と強す水董

笑令策心巴三笑令

けりり一面氣あしほさる

心灰恨未平

とくよ事向は違さく

帰らんとし旅ハ成り

諾金何鏗錯

陰壁終研精

捲のほ心原も霧のおそ

霧薄見山横

笑心筠策巴昌策友

秋葉は凡よみく子母のこ
 月よそとくふ池乃草
 水哉交不俗
 道也才難兄
 立別くも毛うさ極
 探春忘路紫

策 三 昌 玄 策 周 雅 三 系

言を語つ物の名は動象
 兼心くもく妙下り
 鞋歴長途倦
 茶将双井烹
 醍醐寧世味
 繾綣此卿情
 常よ言の字の葛城

心 巴 籍 今 笑 周 昌 系

子の言を正し所の秋を

竹院歳峰嵒

ありそひて幾世家のさる迄

依り凡の穴実し

吹あけぬともやいふは

浦迷水一泓

狂波鷗破睡

少紀ある水や未だ耕

里人の神楽よこさるて

繁花満八統

賞春無若洛

祝代易加瀛

よむちやらのいふさる

ひくしと思凡か貞か

策彦十五三条大納言十一周隣七

心笑筠策雅友

雅策

巴友

策友

令昌

笑隐八 水奇傲霜一 绍巴九
 壽筠七 令歎八 藤霜七
 雅敦朝臣六 昌比八 心前七
 玄哉五 通勝一

此先ては女富士と洛乃七礼

御前簾捲寒

故奈良

又下し是より守る事花飛

惜春鳥元声

浮奈良

初下凡是てし物し時多礼

月昇落葉庭

梅奈良

嘆上是ちる名思好花元礼

吟遊元情春

鉢山

大休

大休

大休

春をよみてはるのうす水

寒江梅欲華

初言ふやそ花あひひつ時

緑陰雨聴奇

花多新緑色

新燭の心よ鳴杜鵑

秋の月のおけさほろり

橘香枕醒時

同

竹雲

楓浦花深圃

秋ころ心のきれひ時

今菊咲かば花の冠れ

かろひひりおねお時

同人も光る人のやま

くもさるる庭の松尾

柳ちる片曇のくれ然るや

一ツ二ツの唐うめ枝

くろひのまきへんれよハまよおすれそのあめ梅は花のる蝶
に海とやあひいそひひは形いふもあめをいひくれ
ありれけよあまあまのまよふく我をあまををりひき
一のあめまきひひの名はひひひてあまあまをりひき
あまあまのまきひひのまきひひのまきひひのまきひひ
はあめのかめまきひひのまきひひのまきひひのまきひひ
花はんといそよあまあまのまきひひのまきひひのまきひひ
あまあまのまきひひのまきひひのまきひひのまきひひ

元和八臘月七日於

竹中丹后守亭

漢和

竹風氷撒玉

道春

池の汀をきく響は空

重門

釣立芳庭の砂月夜

昌琢

雨餘霧乍晴

永菴

風暖山改觀

大圭

菊園晚夕采

飛蝶八宿しめりりの垣内

糸面をゆきすなもて雪

韶光雲出谷

多すはハこま頃

河海たわらう水越の月邊

茂使早苗争

岩ののりた暮の葉散て

白く

昌琢

玄陳

正元

為益

宗務

乃雲

主門

神り樵入露をこぼる

角亮暮村近

軒角夜月迎

輿沐秋尚嫩

かきすはく藝藝鳴

向まはむむを掬けり

断碑難認在

里の神をむむる

昌琢

永乾

大喜

白く

昌琢

玄陳

正元

為益

高きけり心くく

雪残雲澄白

眩勢室高明

春秋や四所のうち移る

林梢月満後

露従風定重

立そふ霧たつと成

権公の事も果あはれに

高

道

表

環

之

在

陳

昌

世はけりかたの身も驚

隠抛勲業鏡

儒對短長檠

川とちてまうけはれ中世の

汗も言定ぬの五文

入松琴有起

行孝杖相櫟

休 あれとほき老の坂

菴

元

道

門

隊

表

走

益

ありあけの陰に芽生

憲貪嫌賜旨

紂濁影夜清

木槁蟬飢露

芸堆螢聚堂子堂

廊ありて涼引水も多入

吹笛の音よきも秋風

迷野啣々鹿

花阮阮元之衣道門

散天耀ニ蝗

月のこぼすそと荒れ草の道

ちりしれはゆれはね扇か柳

襯花苔亦色

道ハそよよ車車真

釣糸より君の御杖や

竜躍示威旌

筆陳哉無款

及之塚 蓮阮阮陳首

履橋良是英

國は世に存るるは

謝過門負荆

素駒のいさよ大心毛

旅のいさよ酔

將に國越や守

友陰をいさよ心

柳邊青未了

高きつる毛のい

風搖波碎月

霜冷尾連菴

孤影拂天

多言濟世

何辜趙醜信

以巧敷饋換

めくぬるも其好の

之以是陳環表

派之乃甚文道

興義二韻并

舟よ今棹出しくとよき

入江のちよとよの草

枕添 珍友 暁

餅月 鳳園 燕

名車八古云うらうら

身よ山濺 彼よと盈

あひかり中村あひのけり

表

寺門

益隊陸

あついでて世をすはる身

すうも 龍うす道小神具

教 山 隣 帝 京

老 抄 如 疲 削

綿 魁 自 纏 采

電 話 暫 消 暑

うらみれ志をわらう道

仙人の極はす道八年とて

現

元門

道

隊

現

霧看増疑露

一いつのまじに

秋凡一老の心

窓踈夢匹賡

詩肩寒徹骨

ふつとわ

離席涙無從

艶書心系平

主之益乃衣隊の連

こころは

約花尋社盟

裁家一人衣箱

まよ

物見する

美巨神電

現陸隊裁乃

神代

寒月誰氷餅

雪を粉ふく我は花

鳴神や石のすを川喜かえ

小歌 七古 齋名

早ね 跳面白

生子抱肌紅

海分てふら葦袴の下

与吟

三江

徳元

口々うしゆのりくろのえ

月多つまよ上定よはん

奈梅^ナ度^ト也^トの

以^テ荷^ト稻^ヲ積^ミ江^ノ艇^ヲ

太平の世うん民曲豊る

片^ノの^ノ子^ノ解^ルる^ハ丸^ト

鬚^ノ及^テ掃^キ蠅^ノ脚^ヲ

集^ル規^ト臭^ク香^ク市^ノ

約^ク守^ルハ^ハ誰^ト也^ト

者^ノ山^ノよ^ハ入^ルく^ハむ^ク者^ノが^ハ居^ル松^ト

霜^ノ深^ク薄^ク其^ノ臺^ノ中^ニ

付句格

詠

沖火より為す七眠や

立花僧 澆煩

摘茗僕 提籠

野取以 罔鳥

床聞 厨独虫

根君 雖約月

摺物包よりけし言し紙

清成 費米 銅

襪 衣裳 洗溝

牛眠群集 糸海岩濃

涼小 深森 裡

病無 逸草 苑

蛇眠驚蟬叫

以名付字

若眾衣馬帽

美人袖鵝翎

求無怨草圈

詠祚意苔窓

在掃地庶莫

世生者要終

湖如魚死浦

冷書毫吐虹

小坊常用持

月乃ひくす最
臨水馬吾景
觀記驛老躬
さる茶のまの川
市路地楓
樅松秋尚録
あつたあつた
源

月乃禿行者

丹後國の仔を功乳
舟是載油賣
基如着甲攻

かへよ物のせえん裏
炭取双三線

連歌

唱句

嫩鶯琴一鼓

まろ月夜や新の物語

月や重層疎に染み

簾為愛山揚

竹密足消暑

菊存甚傲雲

道春

蕉昌

玄仲

永乾

大建

巨三

あつたる位片秋の口を落こ

日くく此言のをこく行是

林自霧晴色

や月よちりむの一寸

江暮漁灯淡

路幽猿杖北

くもる心より秋轉り

ほろけに閑去り彷徨

まろ

昌俊

銀佐

吉真

権象

乃春

高昌

玄仲

曙雲天欲雨
禁闕歲無疆
風義民懷惠
之流すある新郷
あつるまを田名取の定川
細流以葦葦航
花火物りて居て
園池のまじや家澤

水鏡
大正
白
吉真
紹伝
昌後
府昌

春山雲抱白
暮戌土司黃
あつるまを田名取の定川
征袖汗成漿
嶮棧履難進
焼やむいあれよあつるま
入しあや法の皇
樂山心愈靜

水鏡
玄仲
白
大正
昌後
紹伝

傾國古猶長

世に於ては... ありまゝなるあり

翠のまゝのありれ廊

月落雁清心

霧のまゝのよもむる船

ゆれぬの雲と秋より三

杳高佳境彰

搥衣輕舞鶴

乃言

有昌

玄仲

水教

重乃

昌俊

大志

白子

拊磬率來凰

今、舜何誓古

うましあまの心匠

けはれれその家えすり

断書記夏商

うしろのまゝに成りての政

德輝年月光

電光石火

銀信

道言

有昌

玄仲

永花

玄真

乃言

重乃

すさまじくあふる草牆
恣風花恙不
いよみそれをのま揚
蜘蛛のすくはみ春
尋隠憇禪房
友善點頭石
化仙凡換骨

昌俊
大直
玄仲
唐馬
白
乃
吉真
永表

抱獨妾一回腸
いよみそれをのま揚
響月曉鐘遠
賞秋社酒賞
か入るあやしの梁
何勞周吐握

大直
玄仲
主門
銀佐
乃
昌俊
乃
白

松や大い國をまじり唐

鳥使似重譯

蛾眉每尺粧

多分をそのみだり

中玉章

多分をそのみだり

洵影悟金剛

汲ふよすまらりあ月

玄仲

道玄

永衣

若真

昌俊

玄仲

銀佐

唐昌

霧消憶夜塘

葉飛風外柳

神立とまれば川の流

夕暮れを待たぬ

迷路客情傷

あはれを待たぬ

踏青任馬良

かり衣をまきし

道

永

吉

主

正

仲

大

俊

半度酌もつらに觴

蘭已筆如在

楚皆砧不常

一秋生万感

永夜滴千行

围月愁陵教

あまのこころのあふ量カガク

あまのこころはけつとるきもあ流し

とも中しころの不洋カガク

世寒離暖附

席暮初朝倡

あまのこころはあまのこころ

あまのこころはあまのこころ

あまのこころはあまのこころ

あまのこころはあまのこころ

あまのこころはあまのこころ

主 仲 大 永 正 信 乃 主

應昌 永表 乃表 吉 俊 去 主 有昌

入眸八景湘
享金花市價
舍瑟杏壇狂
恩厚錐春眼
神の高くしるる幣ハ囊ニ

後大正乃表

寛永四年四月廿五日 脇坂淡路守

紅鶴庭縮蜀

周師

左の五少乃家乃松牆

安元

月逢宵園世

元春

山遠景知南

元竹

今物のまをしるたりたりたりたりたり

雲際雁高翔

市表

了ん人

玄仲

赤正此山田が神やうとあえ
往來くむむの傍
佳境留吟履
舟のいつきさる梅多
鶯蟄知寒重
駒駛疑晷長
長夜立衣もの心迷て
笠檐風簸揚

唐昌 張金 履菊 昌俊 社之 本光 阿元 乃喜

夕斜樵彈檐
暑さほそふの乃之柳
露乾蟬忍渴
初秋よりし淋し片園
月ハ清きゆもあゝ
胸霧思尋意
あはれいともうひて教もよ
醉成すめくしきま揚

元竹 仲 表 昌 糸 菊 昌 元

春將渭城別
門論楚國狂
不徒車上孔
三傑握中張

國師
表以之

振書

法有...
琴趣依松識

今以...
苔滑板橋霜
雲密暮鐘絕
島瘦詩肩聳

はきひまの時多武庫の心冠

霧晴月愈歎

稲妻れ物簾のまくみひす

秋院誦_ス金剛_ヲ

乃云

谷川の岩りりあも名果ま

篋溜響_キ浪ニ

琴吹_リい_レせな_ク粧

衡芽容_レ勝亮

苦瓠_レ潤_レ情_ハ壯

邪人の神本陰を_レ中

倦_ニ歩_ニ被_ニ節_ニ倡_ハ

若て能上る公くしはらかり

巴猿客断腸

諷流連字字

禪室口提洞

とこのむんをあやな成あし

塚边経就荒

唱句

虫窓星照座

水多分は此蓮の心で

風度起清漪

交谈遊真樂

旅程边雁隨

すせけよあまのこよふ家麻

夕斜 蕉路急

長ふよきりふれ 碎の怡ヨロコビ

舞風前蝶

猛威 窟裏獅

ちひさし中しあやめ持出

語於七夕ツキ松

あうりし雪の流りわらう

梅 馥 報春信

幽齋空 扣寂

真隱 每耳飢

菊咲く女の宿りとうと

秋經荷鋤亮

乾句格

鶯古漢三尺

平花天下來

鯨音祇百八

歌月夜欄哉

得庵

老々々々々々々々々々々々

たりのあやゆきとたのしみ

